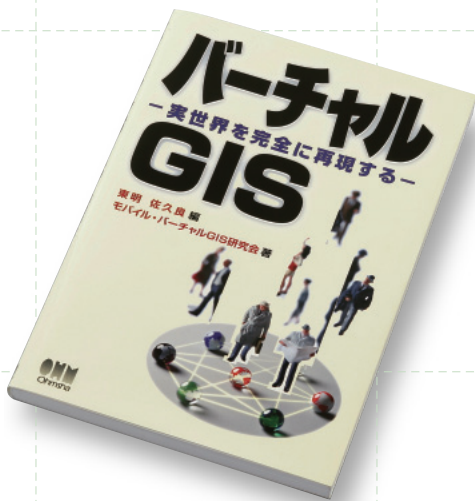


『バーチャルGIS 実世界を完全に再現する』



モバイル・バーチャルGIS研究会 著
東明 佐久良 編
ISBN : 4-274-50019-5
定価 : 本体 2,400円 + 税
オーム社

身近になりつつあるGISの未来像とは、
将来のイメージや必要な技術、社会への影響などを概説

森山 和道(サイエンスライター)

実世界をバーチャル化し、情報システムの上に再構築する。

少し前まではこんな話をしても、なかなか実感を抱いてもらえなかった。それがカーナビの急速な普及と高度化、GPSケータイの普及、配車システムや土地の活用へのGIS(地理情報システム)の活用、そしてGoogleマップのようなアプリケーションの登場に伴って、猛烈な勢いで親近感を増しつつある。

現在の3次元地図は、表面の形と、これまでの2次元地図が持っていた属性情報を貼り付けたレベルに留まっている。

だが、遠くない将来、建築CADデータとの融合による内部レイアウト情報をはじめ、そこに出入りする人間や車両その他

オブジェクトの移動体の情報、履歴など時間軸上の情報などが全て統合される時代がやってくる。現実世界の情報と同期し、電子的に再現された時空間の中で様々なサービスが展開する時代が、すぐそこまでやってきている。

本書は、そんな時代を展望し、将来のイメージや必要な技術、社会への影響などを概説したものである。複数の著者が執筆している。書き方も執筆コンセプトも統一されていないし、GISの持つ社会的インパクトに対する考え方もバラバラしている。だが現時点では様々な考え方を知ることが重要だ。これはこれで良い。

頭にはGISの未来を描くSF小説が付されているのだが、これは余計。

『プライバシー・ゼロ 社員監視時代』

企業による社員のネットアクセス監視が当然の現代
結果的に社員のモチベーションを低下させることに

山川 健(ジャーナリスト)

個人情報保護法の今年4月の全面施行、頻発する個人情報漏洩事件。こうしたことを背景に今、企業が社員を監視する行為が当たり前になってきた。加えて、街には防犯を大義名分とした監視カメラがあふれ、さらに主要道路にはNシステムのカメラが張り巡らされている。知らず知らずのうちに、我々の行動が筒抜けになる社会システムが出来上がってしまった。

本書は、会社内での社員のパソコン利用に対する監視に関し、そのシステム、ソフト、実態を、する側とされる側への取材を通して解説している。

社員がアクセスしたサイトやメールの内容を、情報システム部などがチェック

することはもはや一般的。しかし現実的には、社員のモチベーションを下げる結果になっている。監視されている状況下では、社員がインターネットを使わなくなるからだ。本書では「監視ソフトやフィルタリングによる一律規制が会社業務の効率を低下させる恐れは確かにある」と指摘している。

取引先や監督官庁に対して、情報漏洩防止に努力しているポーズを示すために監視システムを導入しているのが企業の本音、ということが本書から理解できる。「煽り立てるセキュリティー業界、踊らされる企業」。本書は、社員を監視すれば問題が解決するという姿勢を改める必要性も説いている。



小林 雅一 著
ISBN : 4-334-93360-2
定価 : 本体 952円 + 税
光文社

本でしか得られない知識がある。
今月の、お勧め、お役立ち、元気になる書籍。

『壊れる日本人 ケータイ・ネット依存症への告別』



柳田 邦男 著
ISBN : 4-10-322315-4
定価 : 本体 1,400 円 + 税
新潮社

テクノロジーに支配される前に
立ち返るべき“日本人”の本来の姿とは？

神野 恵美(欧州在住・編集記者)

近年、青少年による凶悪犯罪や医療ミス、企業不祥事などの重大事件が増加し、“安全神話”が崩壊しつつある日本。豊かな経済力と優れた技術力を誇るこの国が、一方でこうした歪みを抱えている事実。この原因を探るべく、著者はITに依存した現在の日本の姿に注目する。

著者はまず、過度な効率主義が人間の自己中心的な要素を助長していると指摘する。確かに、我々は文明の利器によって、時に全知全能であるかのような錯覚にも陥り、匿名性が守られるネットの世界では、現実世界よりも行動に無責任でいられる。さらに著者は、“曖昧さ”を許容する日本特有の文化と、効率優先の“曖昧さ”を許さないITの資質との差異

にも言及する。つまり我々は、その“曖昧さ”ゆえに、対極にあるものでさえも容易に受け入れてきた。しかしITへの依存が高まるにつれ、“曖昧さ”によって保たれてきた文化や道徳までもが失われ、この国の人々を破壊し始めたのだ。

実際、海外に暮らしていると、日本という国の興味深さを思い知る。我々は、歴史ある古い建物や文化を温存する一方で、近代的な建築物がそびえる都市でハイテクな生活を送る。これもまた、“曖昧さ”ゆえに育まれた文化の象徴だろう。我々は、日本の社会がこの微妙な均衡の中で成り立っていることを深く認識し、ITへの依存を今こそ考え直さなければならぬことを本書で知るだろう。

『ブログ 世界を変える個人メディア』

ブログが生んだ「草の根ジャーナリズム」に、
新たな時代の到来と可能性を見る

斉藤 彰男(編集者、SE)

この1年ほどの間に「ブログ」という言葉は急速に広まり、もはや市民権を得たといえるまでになった。誰もが簡単にウェブページの更新を可能にしたこの工具箱は、いまや個人の日記に、趣味や生活情報の交換に、企業のマーケティングや広報に、はては有名人や社長の発言の場として、さまざまな分野で利用されるようになった。

米国におけるジャーナリズムもその1つであるが、本書の著者ダン・ギルモア氏は、ブログの登場によって、これまでの巨大メディアによるニュースの制作と報道のスタイルが大きく変貌するだろうと指摘する。

これまではニュースの受け手であった読者が、ブログを手にして情報の発信者となる「草の根ジャーナリズム」が生まれ、

やがてそれは巨大メディアを席巻することになるかもしれないと、ギルモア氏は語る。

たしかに、ブログを使って個人から発信される情報は、信頼性、公平性といった点でマスメディアには及ばないし、また意図的な情報誘導といった罠もときには存在する。しかし、一方で大衆によってもたらされる豊かな知識は1人のジャーナリストを超えるものがあるし、またコミュニティによる自律的な事実確認や訂正といった優位性があるとギルモア氏は指摘する。

本書は、あえてサンノゼ・マーキュリー・ニュースのコラムニストという地位を捨て、草の根ジャーナリズムを実践するためのベンチャーを設立したギルモア氏の「独立宣言」ともいえる力作である。



ダン・ギルモア 著
平和博 訳
ISBN : 4-02-250017-4
定価 : 本体 2,100 円 + 税
朝日新聞社



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp